

富浦地区学校再編検討委員会第8回会議 会議録

日時 令和8年3月26日（火）

午後7時00分から午後7時40分まで

会場 とみうら元気倶楽部 交流室3・4

【当日関係者】

検討委員	15人（3人欠席）
オブザーバー	1人（2人欠席）
傍聴人	0人
報道	0人
事務局	11人（2人欠席）

1 開会

進行 皆さん、こんばんは。

本日は、大変お忙しい中御出席をいただき、誠にありがとうございます。

本日の会議の進行を務めます、教育委員会事務局学校再編整備課長の鈴木と申し上げます。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に、お手元に配付してございます、資料の確認をお願いします。

まず、会議次第。

次に、資料1「富浦地区学校再編に関わる地区説明会の結果について」。

次に、資料2「富浦地区小中学校保護者対象のアンケート結果について」。

次に、資料3「令和8年度 南房総市立小中学校 児童・生徒数見込み（富浦地区・富山地区）」。

最後に、第7回会議の会議録。

配付物は以上の5種類となります。不足等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、ただ今から、富浦地区学校再編検討委員会第8回会議を開会いたします。

す。

会議は、次第に沿って進めてまいります。

2 委員長挨拶

進行 次第の2、委員長挨拶。穂積委員長、お願いいたします。

委員長 皆様、こんばんは。

桜の開花の便りが聞かれるようになりましたけども、また今日は雨の中、特に足元が悪い中、また年度末ということで大変お忙しい中、検討委員の皆様・市議会議員の皆様には御出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、過日の保護者説明会並びに地区住民説明会には同席をしていただき、誠にありがとうございました。

それでは、ただ今から富浦地区学校再編検討委員会第8回会議を開会させていただきます。よろしくお願いいたします。

これまで本検討委員会では、子どもたちの将来に関わる教育環境の整備・向上について、いろいろと協議を重ねてまいりましたが、なかなか結論が得られなかったという状況が続いておりました。しかし、PTAの皆さん方が大変御苦勞をなさって、アンケート調査をした。その検討をいろいろした上で意見を集約しましたところ、富浦中学校の再編に関しては、一旦保留とするということになったわけでございます。

しかし、次年度以降の小学校低学年の児童・生徒数の推移を見ても、人数が極端に減少してきている現状からも、学校再編の検討を引き続き進めていく必要があると考えるところでございます。どうかこの点を御理解ください。

子どもたちの将来に向けての教育環境の向上のために、お力添えを賜りますようお願いしたいと思っております。

御審議のほどよろしくお願いいたします。今日は御苦勞様です。

進行 ありがとうございました。

3 教育長挨拶

進行 続きますして、次第の3、教育長挨拶。
三幣教育長から挨拶を申し上げます。

教育長 こんにちは。

御出席ありがとうございます。

第8回ということで、会議を重ねていただいておりますけど、私どもが会議を進めて出す結論というのは、教育委員会がいただくということもあるわけですけど、それよりも私どもが考えていますのは、5年後・10年後の中学生、あるいはそのときの保護者に、私どもの結論を伝えていくということで、白浜小学校の再編を進めていきましたときに、区長さん方からはずいぶん「まだ早い」というようなお話を伺ったんですけど、1年前の4月の入学式で、入学した子どもが6人でした。6人の入学生を見たときに、やっぱり区長さん方はかなりショックだったようで、現実を目の当たりにしたということで、6人という集団というのはこういうものかということを目の当たりにして、その後、「時期尚早」といった声はなくなったことを記憶しております。

富浦中学校が5年後あるいは10年後にどういう状況になるかということ、今委員長のほうからありましたけど、小学校の通常学級のほうで、一クラス9人という数字が見えています。9人というのはどういう数字かと言いますと、私の正面の議員席の3人と、左側のほうの学識経験者・区長さん方を合わせまして9人です。9人の集団で、今日はたまたま3人が欠席ですけど、そうなりますと、この6人で日々の授業を進めていく。今日は女性が一人ですけど、こういうことも起きてくるという。

あるいは他のクラスは、右側にPTAの方々あるいは校長の12人(※)の席があるわけですけど、例えば1年生が9人、2年生が12人、私どもの後ろの事務局を合わせて30数名ですけど、全校でこの程度の人数になるということです。

(※正しくは、10人)

少ない人数になってきたときには、学校は勉強だけではありませんので、大勢の子どもたちと接する中で、ぶつかり合ったり、あるいは助け合ったり、そういう中で自分の存在に気がついたり、あるいは友達存在を改めて見直したり、あるいは集団の中でどうやって生活していったらいいかということを学んでいくわけですが、極めて少ない人数の中で、例えば10人のクラスで、男の子・女の子5人ずつとなりますと、人間関係が固定化してくる。これは、今までの私どもの経験でも十分味わっております。人間関係が固定化してきて、圧の強い子の言いなりになるとか、あるいは暴力的になってくるとか、あるいはうまくいった場合、ごくまれですけど、助け合っていく。それでも、5人・6人の集団の中で6年間、あるいは中学校生活を送っていくという。

こういうものが、5年後・10年後の生徒・保護者から「なぜこうなったか」というような問いが出たときに、私どものこの会議で、こういう理由で、この少ない人数で学校をやっているということが結論として出ました、という説明をしなくちゃいけないのが、私どもの立場だと思っております。

ですから、少ない人数で富浦中が運営されているときに、その時々生徒あるいは保護者から、「なぜこうなったのか」というような疑問が出たときに、きちんと答えられるような結論を私どもは出していきたいと思っておりますので、会を重ねて大変申し訳ありませんけど、5年後・10年後の生徒・保護者に答えられるような結論をいただきたいと思っておりますので、御協議のほうよろしくお願いいたします。

4 報告等

進行 それでは、次第の4、報告等に移ります。

(1)「地区説明会の結果について」、事務局から説明いたします。

事務局 それでは、次第の4、報告等(1)「地区説明会の結果について」、御説明します。

資料1を御覧ください。

3月12日・13日と、委員の皆様には説明会へ御出席いただき、ありがとうございました。この説明会では、12日の保護者対象の説明会に21名、地区住民対

象の説明会に6名の参加がありました。

説明内容としては、これまでの富浦地区学校再編検討委員会の検討状況、保護者アンケート（自由意見調査）の結果を御説明しました。自由意見調査書を精査すると、反対意見に記載したものの、学校統合には反対していないものが多くあり、賛成意見と合わせると、回答した方の約8割が学校の統合に関心を持っていることがわかりました。

この結果からも、教育委員会としては、引き続き学校再編に関する結論を得られるよう、協議をお願いしていく考えを説明しました。

説明会での質疑応答について、各説明会別に載せておりますので、かいつまんで振り返りたいと思います。

まず、保護者対象の説明会では、(1) 保留ということについて、来年度も同じように審議を続けていくのか、何年かおくということなのかという質問があり、委員長からは、統合の賛否が拮抗していることから、新年度になり、教育委員会のほうで新たな統合案があるのかも加え、今後さらに検討していこうという考えであること。教育長からは、検討には時間がかかるため、継続して協議をしていっていただきたい考えであることを回答しました。

2 ページ目、(3) の、ずっと反対意見が続いた場合、もっと時間がかかるということかという質問に対しては、反対理由を明らかにし、富浦地区は統合しないで、少ない人数でも子どもたちに中学校生活を送らせるというような結論がいただければ、富浦地区の結論として受け止めると回答しました。

3 ページ目、(6) の、前回の説明会の中で、仮に富山・富浦地区の統合がまとまった時点で、すぐに三芳との統合の会議に入らないと時間がないのではないかという話が出たが、今回保留にすると、三芳地区の統合の時期にあたると思うが、どうお考えかという質問がありました。これについては、保護者の発言としてそのような懸念があると話の出たものですが、これについての回答は、三芳地区を入れると教室の数が足りない状況になること。富浦中と富山中との統合中学校で子どもの数が減り、三芳の子どもも減っていくという状況になったら、それを見通して、また再編検討委員会で協議していくことになると思うと回答しました。

続いて(7)、やっと統合が決まって、三芳も人数が減ってくる見通しが立ったら

会議を開くという運営では、互いに負担が増えてくると思うという質問に対し、館山市の段階的な学校再編を例に挙げ、先生の異動の問題など、学校を維持していくために解決が必要な問題もあることから、徐々に統合していくしかないことを説明しました。

続いて、5ページ目、地区住民対象の説明会ですが、子どもに対するアンケートについて質問がありました。保護者説明会でも同様の質問がありましたが、子どもたちがどのように思っているのか聞いてみてほしいという内容でした。将来を見据える必要のある統合の問題について、子どもに問うことは難しく、教育委員会としては子どもへアンケートをする考えはないということ。また、子どもの意見はそれぞれの御家庭で聞いていただいて、それを保護者の中で協議し、とりまとめた結果をいただきたいという回答をしました。

自由意見調査の内容については、この後の議事の中で御意見を伺いたいと思います。

説明会の結果についての説明は以上です。

進行 報告が終わりました。

御質問等がございましたら、御発言をお願いいたします。

なお、議事録を作成いたしますので、挙手の上、お名前を述べてから御発言くださいますよう、御協力をお願いいたします。

《しばらくの間》

進行 はい、マイクをお持ちします。少々お待ちください。

委員 質疑応答のところで、三芳地区を入れるとクラスが足りなくなってしまう。入るハコがなくなってしまうというお話が、学年で2クラスではなく3クラスの誤りということで御回答いただいているんですが、そもそもこの資料を見させていただくと、一番最初の会議で配付された「富浦地区の中学校再編（案）」の資料で、「富浦中学校は、現在、各学年1クラスだが、統合することにより、2クラス又は3クラ

スの学級編制ができ、クラス同士が切磋琢磨する教育活動や、クラス替えが可能となるため」というふうに書いてございます。

そうすると、そもそも2クラスか3クラスの学級編制を想定していたんではないかなと思うところなんです、生徒数が入る・入らないことと、ここの関係性がちょっとよくわからなかったんですが、いかがでしょうか。

教育長 ちょっと確認させてください。

《しばらくの間》

教育長 これは3学年全てが3クラスということではなくて、学年によっては2クラス、あるいは学年によっては3クラスできるという、全てが3クラスといったことになってくると、非常に難しいという判断です。

進行 いかがでしょうか。

委員 はい、わかりました。

ごめんなさい、この先の話になってしまうかわからないんですが、保護者の自由意見の中で、三芳も含めてということで、「さらに広範囲で」という11人の回答も一応ある中で、富浦・富山・三芳を三つくっつけると、3クラスになってしまう学年がどの段階であるのか。教育長がおっしゃったのは5年後とかを見据えてというお話があったんですけども、そこで3クラスを超えてしまうことがあるのかどうかというのが、ちょっと疑問がございませう。

また、今の三芳中学校の1年生については、嶺南中学校へ10人くらい行っていて、実際の小学校を卒業した数と中学校に入る数がイコールではない。現に減っているという状況でして、そこに関して、想定では三芳はこれから人が増えるということはおっしゃっていたんですけども、現にこうやって減ってきている中で、その辺の想定とクラス数もいかがかなというところはございませう。

さらに、今そういう状況が起きている中で、前に三芳のPTAのほうに意見を聞

いたときには、「統合は必要ないということの回答がありました」ということで、以前に、私ではないんですが、うちのほうの他の役員から聞いたときに、「PTA役員も変わっているので、また意見を聞いたらどうでしょうか」というお話があったと思うんですが、そこがまた実際に中学校に入学する人数が減っていることを受けて意見を聞いたら、またそちらのほうも意見が何か変わってくる部分もあるんじゃないかなと思っているんですけども、その辺のところに関してはいかがかなと思います。

教育長 生徒数は読めない状況にあります。

今の三芳小から嶺南中に行った1年生は10人います。今年度の卒業生はいませんので、なおかつ富山小学校は36人が卒業しましたが、そのうち6人は君津のほうの中学校に行っています。

私どもが懸念しているのは、この前も話しましたが、2割の小・中学生が安房地区外に行っています。この傾向はもっと強くなっていくのかなと。富山も富浦も、このまま中学校の人数が少なくなっていったときには、地元の中学に行かないで、君津のほうに行く割合は増えてくる。あるいはそういう選択肢もありますので、そうなるのかなと。それは読み切れませんし、ただ人数が少ない学校になってきた場合はそういうことになってきますので、できれば可能性として、一人でも多いような学年の人数で中学校生活を送れるような統合ということを想定しています。

三芳中学校が入りますと、今はどこの小・中学校もそうですけど、特別支援学級が多くなってきていまして、通常学級を二つに分けてとか、そういった形で使っていますので、これは余裕のない状況というんですかね。3校の統合を一度に進めていくということは、富浦中学校を使うにしても、富山学園を使うにしても、困難な状況にあるということは御理解いただければと思います。

委員 はい、ありがとうございます。

この質疑応答で、隣の館山の例も挙げていただいたりとかしたのですが、例えば富浦のほうがなかなか踏み切れないでいるということに関しても、今教育長がおっしゃったように、この人数では入れないというところはむしろ示していただいた

ほうが、富浦の保護者のほうについては、今くつつくべきかというふうに、進む材料にはなるんじゃないかなというふうには思っています。

さらに、この時点になると、ここまで減ってくると、もしかしたらそこも含めてというところを明示していただいたほうが、どのタイミングでということは判断しやすいのではないかなというふうに思っております。

以上です。

進行 ありがとうございます。

他に御質問等ございますでしょうか。

教育長 委員さんの意見については、この会議は、前回の結論としては保留ということになっていますよね。このまま継続的に来年度もこの再編検討委員会で検討していこうということになりましたら、新たな数字をもって資料として出していきます。

進行 よろしいでしょうか。

他に何か御質問等はございますでしょうか。

進行 それでは、次第の5、議事に移る前に報告がございます。

本日の出席委員は、18名中15名であり、過半数に達しておりますので、設置要綱第7条第2項により、会議は成立します。

次に、本検討委員会は、設置要綱第7条第4項により公開となっておりますので、傍聴の申し出がありましたら、会場の傍聴席に入ってください。

以上で、報告を終わります。

5 議事

進行 それでは、次第の5、議事に移ります。

設置要綱第7条第1項の規定により、委員長に議長をお願いいたします。

議長 それでは、議事運営につきまして、よろしくお願いいたします。

会議は、設置要綱第7条第4項の規定により、公開とすることになっていますので、傍聴の申し入れがありましたら、これを許可します。

傍聴の申し入れはありますか。

進行 ありません。

議長 傍聴はなし、わかりました。

また、委員の皆様をお願いいたします。発言の際には、挙手の上、お名前を述べてから御発言いただくようお願いいたします。

また、発言をされる場合には、どうかこの場ではマスクを外していただいて、明瞭なお答えを私のほうはお聞きしたいと思しますので、その点はよろしくお願いいたしますと思います。

それでは、議事に入ります。

議事の(1)「次年度以降の富浦地区学校再編検討委員会について」を議題とします。

事務局からの説明をお願いいたします。

事務局 それでは、次第の5、議事の(1)「次年度以降の富浦地区学校再編検討委員会について」、御説明いたします。

前回の第7回会議において、富浦地区学校再編検討委員会としては、会議を次のステップに繋がられるよう、統合について結論を保留するという。また、教育委員会において自由意見調査の精査を行い、今後の対応を検討するという事で終了しました。

自由意見調査の結果については、地区説明会で御説明させていただいた資料2のとおり、通学路や統合の範囲に関して反対とする方の多くは、統合についてまでは否定していないという結果がありました。

また、資料3については、こちら説明会で配付したものになりますが、令和8年度の児童・生徒数の見込みとなっており、小学校4年生以下の通常学級で人数が

少なくなってきました。

自由意見調査の内容については、この後委員の皆様がどう受け止めたか、御意見を交わしていただけたらと思いますが、教育委員会としては、この自由意見調査の結果や今後の人数推移からも、ここで協議を止めずに、学校再編の検討を進めていく必要があると考えております。

つきましては、来年度も引き続きこの検討委員会を開催し、富浦中学校の再編について検討を進めていただきたいという考えでおります。

その点について、皆様からの御確認をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議長 ありがとうございます。

ただ今、事務局から説明がありました。

ここでは、二つの内容についてお伺いしたいと思っております。

まず一つは、教育委員会で精査しました自由意見欄の調査。これについて、委員の皆様はどのように捉えましたでしょうか。ぜひ皆様の御意見・御見解を伺えたらと思っております。

次に二つ目は、この自由意見調査の結果を受けて、来年度も検討委員会の検討を継続していただきたいという教育委員会のお話がありました。前回の会議では、統合の賛否が僅差であったということで、協議の状況からも結論を保留するとしましたが、内容を精査してみたら、統合そのものは受け入れている方が多くいたということでした。前回の会議では、保護者の委員の皆様から「もうこれ以上は進めない」というような発言もあったわけですが、検討は止めずに続けていくべきではないかという教育委員会の投げかけでございます。この2点、いかがでしょうか。

それでは、御意見・御質疑等がございましたら、御発言をお願いしたいと思います。

委員 よろしく申し上げます。

二つに分けたようですけど、二つに分けてお話しできるかどうかわかりませんので、その辺は御容赦願いたいと思います。

アンケート結果で、賛成91の反対109。極端な言い方ですけど、ひよっとすると、もう1回やるとひっくり返っちゃうのかもしれないなという程度の差かなというのが印象でした。

それと中身を見ていくと、統合自体については、やっぱり子どもたちの環境を考えると、このままじりじりと減って行ってしまっていて、先ほど話が出たように9人くらいまで落ちてしまうと考えると、まさに教育長がお話したような状況になるというのは想像がつくというか、目に見えるような感じがしますので、そういうことであれば、自由意見調査の後の父兄の方たちのアンケートは、ただ数値だけ見ると91対109で賛成が少ないというふうになりますけど、中身を見ると、三芳との統合のこととか、学校に通うのに、前提としては富山学園のほうという雰囲気がありますよね。まだ決まってないとは言いながら、実際にはそういう形になるのかなというのがありますので、そういうことを考えると、引き続きですね、教育長さんから今お話があったように、三芳についてもちょっと人数が多いのかなというのがありますし、ここで説明させてもらったように、富浦と富山がくっついても、何年か後には今より少なくなっちゃうのは目に見えているなというのは統計上は明らかですから、じゃあすぐに三つが一緒になればいいのかなというの、お金のことを話してはいけないかもしれませんが、財政上のこととか、子どもたちの負担を考えると、三つが一緒というのはなかなかつらいかなというように私は思います。

長々とお話しましたが、そういうのも含めて、この内容が変わっていく可能性があるなというふうには感じておりますので、引き続き来年度も検討委員会を続けてほしいなというのが率直な気持ちです。

以上です。

議長 ありがとうございました。

どうぞ御遠慮なさらずに、ただ今いろいろ説明を申し上げましたけれども、これらについて御意見があればお伺いしたいと思います。

児童・生徒数は、先ほども資料としてお示したように、ずっと減少が続いていく。また、他地区の学校へ通学する。こういうような児童・生徒の移動状況も現に現れている。こういうふうな相対的なものから見て、いかがなものでしょうか。

ただ今いただいた御意見は、とにかくこの資料をもとにしながら、さらに検討を加えていったらどうですかという御意見をいただいたところでございます。

《しばらくの間》

議長 いかがでしょうか。

《しばらくの間》

委員 令和5年11月からこの検討委員会を立ち上げて、2年半のうちの2年間、委員としていろいろ協議に参加させていただいたんですけど、結果的に考えれば、一進一退を繰り返して結論が出ないという現状のままで、これを打開するには、先ほど他の委員さんも申し上げたんですけど、三芳も入れた3校の広域統合、これについて、特別支援学級のことも考えたら、一つの校舎に教室の数が足りないという見解ならわかっているんですけど、何年度以降だったらこの3校の統合ができるというのを、やっぱり保護者に最低限見せない、「それだけ時間かかっちゃうんだから選択肢は富山との2校の統合になるか、それともこのまま少数にするか」とか、そうやって選択肢を丁寧に説明して、「これくらいの時間がかかるから、この2校の統合をまず先に提案させてもらっているんだよ」というのを保護者に提案して、理解してもらおうというのが一番大事だと思うんですけどね。

このままいっちゃうと、2校にするのか3校にするのか、もうずっとこれが平行線のままで、次年度以降の役員とかに結構な負担がかかってくるので、一步進んだ統計的な資料を用意して、丁寧に説明したほうがいいんじゃないかなと、私はこの2年を経験してそう思います。

今の新2年生が通常学級で9人になってしまう富浦小学校の現状というのは、非常にかわいそうかなと個人的には思うので、話し合い自体は継続していてもいいかなと思っています。

議長 ただ今、このままの状態が終わるということは、やっぱり子どもたちの将来を考

えれば、残念なことになりますので、とにかく継続していく。その継続していく中で、今委員さんがいろいろおっしゃられた、3校にした場合はどうなんだ。あるいは2校の場合はどうなんだ。継続という形でこの会が伸びていけば、そういう具体的な細かい数字もさらに打ち出してこられると思うんですね。

したがいまして、皆さん方のいろいろな御意見をお伺いする中では、やはりここまで来た、それぞれのアンケートとかそういうものを大事にしながら、次年度以降、さらに改善策を求めながら引き続いていくということがよりベターになるのかなというふうに受け止めたわけなんですけどもね。

そういうことでよろしいでしょうか。他に御意見ございますか。

今までのお二方の御意見をお伺いしますと、やはり次年度以降も新たな問題点を見出しながら継続していくことが望ましいのではないかというふうなお話を伺ったと、このように記憶いたします。

他には特に御意見ございませんでしょうか。

《しばらくの間》

議長　それでは、御意見・御質疑はないようですので、これで打ち切りとさせていただきます。

それでは、お諮りいたします。

富浦地区学校再編検討委員会は、来年度以降も富浦中学校の再編について検討を続けていくということによろしいでしょうか。

《異議なしの声あり》

議長　御異議なしということでございますので、皆様方の御意見は御異議ないものと認めることにいたします。

それでは、議事の（１）「次年度以降の富浦地区学校再編検討委員会について」につきましては、新年度の委員の皆様へ本会議を引継ぐことといたします。新年度の会議の日程等につきましては、新年度の委員の委嘱手続きが済み次第、正副委員長

と事務局で調整の上、お知らせしたいと思っております。

本日の議事は以上でございます。以上で本日の議事が終了しましたので、事務局に進行をお返ししたいと思います。

進行 議事の進行、ありがとうございました。

6 その他

進行 それでは、次第の6、その他ですが、事務局からお知らせがございます。

事務局 それでは、その他について3点御説明いたします。

まず1点目、今後の日程等について。先ほどの議事において、来年度以降も引き続き学校再編について審議を継続いただくこととなりました。ついては本日をもって、会議は次年度へと引継ぎになります。

令和8年4月になりましたら、事務局から各所属へ検討委員の推薦依頼を行います。引き続き検討委員をお受けいただく方もいらっしゃると思いますが、改めて推薦いただくようお願いいたします。

また、交代される委員の皆様につきましては、新たに選出される方々とお話する機会があるようでしたら、これまでの会議の内容について引き継ぎをお願いしたいと思います。事務局としても、令和8年度1回目の会議において、これまでの振り返りを行う予定です。

推薦の報告を受けた後、教育委員会で検討委員への委嘱の手続きを行います。手続きが完了次第、正副委員長に令和8年度の1回目の会議日程を決定していただきます。委員の皆様や関係者の皆様には後日、手紙にて御案内をさせていただきます。

2点目、本日の会議録について。市のホームページに掲載いたしますので、御了承ください。

3点目、下半期の報償費の支払いについてですが、本日までの出席数をもって口座振込みをさせていただきます。

以上です。

7 閉会

進行 事務局からは以上となりますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

それでは、ないようですので、以上をもちまして、富浦地区学校再編検討委員会
第8回会議を閉会いたします。

御協力ありがとうございました。